

東京海上日動火災保険株式会社
(2024 年 10 月 2 日)

各種ニュース報道のとおり、米東部時間 10 月1日午前0時1分、米国の東海岸・メキシコ湾岸の港湾労働者が 47 年ぶりとなるストライキに突入しました。本号では 2024 年 9 月 27 日号でお伝えしたストライキによる物流への影響について続報をお伝えします。

1. ストライキまでの経緯と経過

労働協約期限切れ直前の 9 月 30 日、ストライキを回避すべく、米
国海運連合 (USMX) は国際港湾労働者協会 (ILA) に対し、50%
近い賃上げ・退職金への拠出金の 3 倍引き上げ・港湾の自動化
と半自動化に関する現行文言の維持等を再提案しました。かなり
の譲歩案ですが、ILA はさらなる賃上げ・自動化の全面禁止を訴
え、10 月 1 日午前 0 時 1 分より、メイン州からテキサス州までア
メリカの東海岸に広がる 36 の港湾労働者約 45,000 人によるスト
ライキを開始しました。



コンテナターミナル前でプラカードを掲げる労働者達
(写真：AP/アフロ)

各業界団体も政府の介入を求めているものの、10月1日に改めてホワイトハウスが声明を発表し、USMX に対し ILA の労働者の貢献に見合った公正な提案を提示するよう求めました。

同時に、カナダで 2 番目に大きく、コンテナ輸送の 40%以上の取扱量を誇るモントリオール港では、9 月 30 日よりカナダ公務員組合(Canadian Union of Public Employees)に加盟する労働組合が 3 日間のストライキを開始し、2 つのターミナルが閉鎖されています。

2. ストライキによる物流への影響

北米東海岸の広範囲にわたる港湾で同時にストライキが発生しているものの、西海岸の主要ターミナルもサンクスギビング以降続く商戦を控えて逼迫が予想されており、物流への影響が懸念されます。

米国運輸省は、今回のストライキに備え数か月に渡り、荷主・海上輸送業者・港湾・鉄道その他サプライチェーンパートナーと、ストライキによる影響を緩和すべく協議を続けてきたと声明を出しており、長期保管が可能な商品の確保は前倒しで進められていました。一方、輸入生鮮食品の供給には、早晚影響が出る可能性が高いとされています。

アメリカ東海岸・メキシコ湾岸の沖には荷役を待つ船舶の列が出来ており、ストライキの状況では更に数が増えるものとみられています。

エコノミストによる試算では、当該ストライキにより1日当たり 38 億ドル(約 5500 億円)から 45 億ドル(約 6,500 億円)に上る経済的損失が発生するとしています。

※上記情報につきましては、あくまで現時点での状況をご報告するものです。最新情報を常にご確認いただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。

【出典】アメリカ運輸省 <https://www.transportation.gov/>

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。



マリンピックス バックナンバー